

=====

THE VEDANTA KYOKAI

ヴェーダーンタ協会

日本ヴェーダーンタ協会の最新情報

2005年1月 第3巻 第1号

<http://www.vedanta.jp/multimedia/pdf/newsletter/index.html>

このメールを希望でない方はタイトルを停止と書いて返信ください。

=====

目次

- ・かく語りき 聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・お見舞いとお悔やみの言葉
- ・ベルルマート本部からのお知らせ
- ・お知らせ
- ・クリスマス・イヴを祝う集い
- ・今月の思想
- ・12月の例会
- ・忘れられない物語
- ・スワミ、日本各地を訪問

かく語りき 聖人の言葉

「死とは予測の出来ないものです。いつその時が来てもいいように、信仰への思いは時を選ばず実践すべきです。死には時の区別がないのです。」

ホーリーマザー シュリ・サラダ・デヴィ

「あなたは神から人間の体を得た。今こそ主の御許、主の高みに行き着く時だ。他の仕事をしても無駄だ。神聖なる人々の一員となり主の御名だけを唱えるのだ。」

グル・ナーナク シク教創始者

今月の予定

生誕日

- ・シュリ・サラダ・デヴィ 1月3日(月)
- ・スワミ・シヴァーナンダ 1月7日(金)
- ・スワミ・サラダーナンダ 1月15日(土)
- ・スワミ・トゥリヤーナンダ 1月24日(月)

協会の行事

・新年の講話と参拝 1月1日(土) 午後0時 逗子協会

・ホーリー・マザー シュリ・サラダ・デヴィ

第150回生誕祭 結びの祝賀会 1月16日(日) 午前11時30分

ホーリー・マザーズ・ハウス開館式

主賓： スワミ・ゴクラーナンダ (ニューデリー・ラーマクリシュナ・ミッション)

2004年12月26日(日)のスマトラ島地震および津波により犠牲となられた方のご冥福を謹んでお祈りし喪心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

本部からのお知らせ

新年号より、ベルルマート本部からのお知らせを掲載します。

今月、ラーマクリシュナ僧団では二ヶ所の支部を開館しました(新設一ヶ所と改築一ヶ所)。これで公式の支部は全部で百五十五ヶ所です。新しい支部および改築した支部は次の通りです。

・スワミ・ヴィヴェーカーナンダの生家(改築と新施設の増設、カルカッタ)
詳細は下記に記載。

・ヴェーダーンタ・ゲゼルシャフト(新設、ドイツ)

住所： Bindweide 2, 57520, Steinebach/Sieg, Germany

スワミ・ヴィヴェーカーナンダの生家の改築およびカルチュラル・コンプレクス(総合文化施設)の建設が完了しました。生家の開館式は2004年10月26日に行われ、ラーマクリシュナ僧団の長、スワミ・ラガナターナンダジを主賓にお迎えしました。カルチュラル・コンプレクスの開館式は10月30日で、インド大統領であるA.P.J.アブドゥル・カラーム博士にご臨席いただきました。

スワミ・ヴィヴェーカーナンダの生家とカルチュラル・コンプレクスの様子は次の通りです：

・スワミ・ヴィヴェーカーナンダの生家： スワミジの生家を復元した建物で、スワミジの生まれた所には小さな祭壇があります。一階と二階の一部が博物館になっており、二階にはメディテーション・ホールもあります。

・テキストブック・ライブラリーとセミナーホール： 地元の五つの大学で授業に使用している教科書を揃え、学生が勉強出来る設備を整えました。セミナーホールは四階にあります。

・ヴィヴェーカーナンダ・リサーチセンター： インド文化の種々の研究、およびシュリ・ラーマクリシュナ、シュリ・サラダ・デヴィ、スワミ・ヴィヴェーカーナンダの生い立ち、霊性、福音について調べ物が出来ます。

・地域振興および貧困地域開発センター： ベンガル地域の失業、健康、衛生問題や貧困地域の生活環境問題に取り組み、解決していくためのセンターです。

新年明けましておめでとうございます

お知らせ

・ホーリー・マザー シュリ・サラダ・デヴィ第150回生誕祭の結びの祝賀会およびホーリー・マザーズ・ハウス開館式を2005年1月16日(日)午前11時30分よりホーリー・マザーズ・ハウスにて行います。当日は、スワミ・ゴクラーナンダ(ニューデリー・ラーマクリシュナ・ミッション)を主賓にお迎えします。皆様のご参加をお待ちしております。

・例会の講話(午前の部)を録音したCDを予約販売しております(一枚五百円)。どうぞご利用下さい。

クリスマス・イヴを祝う集い

12月24日の夜、恒例のクリスマス・イヴを祝う集いが行われました。逗子の協会の広い玄関に飾られた彩りもにぎやかなリースやキャンドルが、信者の方々を温かくお迎えしました。

二階の礼拝室隣にある集会室にはろうそくの光が揺らめき、花の香りがいっばいに広がっていました。小さな木イスの上にはイエス・キリストの絵が置かれ(いつもは礼拝室の壁に掛かっています)、その下には額入りの聖母子像が置かれていました。どちらも生花の花輪が掛けられ、周囲の床にはろうそくが並べられ、花束や果物、お菓子が捧げられてありました。

暖かなキャンドルの光の中、信者の皆様とスワミ・メダサーナンダは短い礼拝を行い、祈りの言葉、お香、お花を捧げました。続いて、英語と日本語で、聖書の中から『種を蒔く人のたとえ』の話、すなわち神の言葉を聞く人の四つの状態の話を読みました。そして、英語と日本語で『きよしこの夜』を歌いました。

「今日はイエス・キリストの生誕を祝う特別な日です。」スワミは言いました。「世界中の教会やキリスト教徒の家庭で、この特別な日をお祝いしています。また、シュリ・ラーマクリシュナ・ミッションの支部でも、この日、クリスマス・イヴを祝っています。」

「イエス・キリストの誕生という神聖な現象には、今なお驚きを感じます。」スワミは、イエス・キリスト、ゴータマ・ブッダ、シュリ・クリシュナらは、人類に大きな影響を与えた数少ない人物であり、時と共にその影響は大きくなっていることを指摘しました。「イエス・キリストは二千年ほど前に生まれましたが、現在も大勢の人が帰依し、キリストを理想の人物、永遠の避難所と見なしています。二千年以上も前に、『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう』と呼びかけたのです。そして人々は平和を得たのです。」

スワミは、このような言葉が出てくるのは人間に宿った神の御力の為せる業であり、人の力だけでは決して起こり得ないと言いました。「イエス・キリストは『私は神の子である』と宣言しています。ある意味、人は皆、神の子ですが、キリストのこの御言葉には特別な意味があります。シュリ・ラマクリシュナは『私は女神カーリの子供だ』とよく言われましたが、やはり特別な意味でおっしゃっていたのです。」聖母マリアの不思議な懐胎に、マリア自身もヨセフも心配しました。しかし、夢の中でマリアの前に現れた天使が、ヨセフに向かって、聖霊が神の子として生まれてくるというお告げをしました。そこで、二人はこの懐胎こそ神の御意志であると確信したのです。「この天使は、キリストは普通の子ではなく、神の子であると告げたのです。」

「では、キリストが神の子であるとはどんな意味なのでしょう。シュリ・ラマクリシュナはこう言われています。『息子が父親の財産を譲り受けるように、神に帰依した者は神の財産を受け継ぐのだ。』ここで言う財産とは、世俗的な財産や富を言うのではなく、信仰、叡智、慈悲、愛、靈的な悟りのことです。キリストは、こうした神の財産を普通の人よりもはるかに多く受け継いでいるのです。」

さらにスワミは違う角度からも説明しました。「ヒンズー教では、神は人類に道を示すために人間に化身すると信じられています。だから、イエス・キリスト、ゴータマ・ブッダ、クリシュナがこの世に現れたのです。彼らは帰依者に靈的な道を明らかにするために来たのです。キリストと神の関係、帰依者と神の関係、ヒンズー教の神の化身という概念を結びつけて考えれば、イエス・キリストをもっと理解することが出来るでしょう。」

「キリストは正式な教育をほとんど受けていないものの、経験から学ぶのが上手でした。キリストは約十八年の間、靈性の実践に身を捧げました。この間の様子はほとんど知られていませんが、インドとチベットに渡り修行をしたと信じられています。このことを認めない人もいますが、大切なのは、この期間にキリストが至高の悟りを得たということです。」

「神との関係という点から考えると、靈的悟りには三種類あります。一つめは、求道者が、神は父で自分は子供だと悟る形です。つまり、神は師で自分は僕（しもべ）という悟りです。二つめは、自分は神の一部であるという悟り。そして、三つめは、自分は神と共にあるという悟り。聖書を研究すると、キリストはこの三種類の悟りをすべて得ていたことが分かります。キリストは、自分は神の子であるとよく言っていました。また、『神はぶどうの木で、私はその枝である』と言うこともありました。また、『私と父は一つである』とも言いました。ヒンズー

哲学ではこうした悟りを、二元論（ドワイタ、dvaita）、限定一元論（ヴィシシュタードワイタ、visishtadvaita）、一元論または非二元論（アドワイタ、advaita）と読んでいます。このように、キリストは非常に素晴らしい霊的悟りを得ていたのです。」

「キリストは教えを説くのに相手によって違ったやり方をしていました。弟子たちには直接的な教えを用い、一般の人たちにはたとえを用いました。たとえば実生活を元に行っているため、伝えたいことを理解しやすく、受け入れやすく、覚えやすい形で伝えることが出来ます。先程聖書を読みましたが、その中でも、キリストが霊的な教えの真髄を弟子に語るどころや、人々にたとえを使って話すところが見られましたね。」

「普通の教師、悟りを得た魂、イエス・キリストの三者を比べると霊性の教え方に違いがあることが分かります。教師は霊的な思想の説明は上手ですが、霊性を伝えるほどの力はありません。悟りを得た魂でさえ必ずしも人に霊性を伝えることは出来ず、たとえ出来たとしても伝え方は限られています。一方、キリストは霊性を説明出来ただけでなく、伝えることも出来たのです。キリストが触れただけで、言葉を発しただけで、祈りを唱えただけで、人の人生が変わったのです。罪人を聖人にすることも出来たのです。キリストは非常に特別なのです。」

「キリストの他の特質について考えてみましょう。キリストには、無限の慈悲、大きな愛がありました。また、許しの心もありました。キリストは自分を死に追いやった人々のためにさえ、神に許しを乞うたのです。キリストは自らの教えを身をもって体現した、まさに生きた手本でした。」

「さらに、キリストには私心がありませんでした。キリストは病人を何度も癒してやりましたが、悪霊に取り憑かれた人々は、病気を癒せるのは神の力だけだと言い切っています。キリストがこのような奇跡を行った真の理由は、たいいてい人は奇跡を目にしないと神を信じないことにあります。人々を神に帰依させるため、キリストは奇跡を行ったのです。苦しむ人を癒し、さらには神の栄光を分らせるためだったのです。」

「そして、三日間十字架に磔にされた後、イエス・キリストは復活しました。悟りを得た魂でさえ、このような復活の力は持ち得ません。この復活は、どのような物理的な手段を持ってしてもキリストを殺すことは出来ない、ということを表しています。キリストが磔にされたのは、自ら磔になることを許したからに過ぎないのです。あの復活により、今日でも敬虔な信者はイエス・キリストの姿を見ることが出来るのです。」

「イエス・キリストは神の化身でした。ですから、キリストが神の子であるという言い方には大きな意味があるのを覚えていて下さい。イエス・キリストに祝福して下さるよう祈りましょう。私たちが神への信仰心と帰依心を育むことが出来ますように。」

安全とは、どれほど備えをしているかよりもどれほど備えなしで済むかで決まる。

ジョセフ・ウッド・クラッチ

12月の例会

12月の逗子例会の講話は、ヒンズーの伝統に基づいた『ホリスティック・ヘルス（全体論的健康）』がテーマでした。スワミ・メダサーナンダは始めにこう言いました。「健康とは何でしょう。一般的には、病気でない丈夫な体というイメージですね。オックスフォード大辞典でも、元気である、病気でない、と定義されています。この定義には二つの面があります。元気とは心で感じるものですから、心の状態と言えます。一方、病気でないとは体の状態を言います。つまり、健康とは肉体的なものだけではなく精神的なものでもあるのです。誰もが経験している通り、肉体的状態が良くても、心が穏やかでない、心の状態が良くないのであれば、自分は今健康であるとは言えません。」

「体の不調だけでなく、ストレス、緊張、失望感などの心の不調も健康に影響を及ぼすことは、誰もが経験から知っているでしょう。他にも、強い怒り、金銭や快樂への貪欲さなども心の不調、心の病気だと言えます。このように、健康には精神面と肉体面の二つがあるのです。そして、この二つには非常に密接な関係があります。」

スワミは、昨今の健康ブームでは、『体に良い食べ物』など健康のためにありとあらゆることが行われているものの、本当に健康と呼べる人はほとんどいない、と言いました。西洋ではこれまで、健康とは肉体面の健康が中心で病気の治療に重きを置いていました。最近になってやっと、肉体の治療だけでは病気の治療にはならないと気付き始めました。

「治療の過程でも心の役割は大きいものです。研究によれば、手術や化学療法を受けたガン患者は、心の状態によってその効果が異なるということが分かっています。楽観的で精神力が強く治療の効果を信じているガン患者は、精神力が弱くガンの再発を恐れている患者に比べると、再発の可能性が低いのです。また、経験から言うと、自信のある医者、たとえば『この薬を飲めば大丈夫ですよ』とってくれるお医者さんは患者が安心できます。自信なさげに『この薬を差し上げますので、とりあえず飲んでみてください』と言うお医者さんでは、患者は『自分は治るのだろうか』と不安になってしまいますね。」

「では、どうやったら心と体を強くできるのでしょうか。ヒンズーの伝統によれば、肉体を強く健康にしようとするのであれば、自分という存在の別の面、別の次元についても目をやる必要があります。その別の面とは霊、魂です。西洋の医師や思想家は、健康のためには心と体を鍛える必要があると強調しますが、私たちの人格の源である魂について明らかにし、魂のことを考えなければ、健康で強い心にはなり得ません。実は、精神科医の治療方法にはあまり信頼できるもの、着実なものはないのです。これは、精神科医が魂や霊の動きを認識していないからです。心や人格が魂と深いつながりがあること、魂こそが人格の土台であることに気付いていないのです。」

「こういえば分かりやすいでしょう。肉体は心を包むもの、心は魂を包むものに過ぎません。私たちを導き、育み、守ってくれるもの、私たちに強さを与えてくれるものは、肉体でも心でもなく、魂、霊、アートマンなのです。ですから、健康になって平和と喜びを享受したいと本当に願うのであれば、自分という人格の三つの面すべてを明らかにし、まんべんなく鍛えることを考えねばなりません。」

「そうやって初めて、ホリスティック・ヘルス、すなわち、完成された健康、全体論的健康を享受出来るのです。ここまで考えなければ、健康の一面だけに目を向けることになり、ホリスティック・ヘルスの恩恵に与ることは出来ません。まず、この点をよく理解して下さい。初めに理解、次が実践です。そして、その次に必要なのが根気です。一晩で結果は出ません。まずは、よく理解することが必要です。そして、頭で理解出来ても、実践し根気よく続けなければ成果は得られないのです。」

スワミは、体を丈夫にし病気にかかりにくくするために、食べ物の重要性について話しました。「私たちの体は一人一人違いますから、自分の体についてよく観察し、体質や体調にあった食べ物を摂ることが大切です。この人には薬となる食べ物が、あの人には毒になることもあるのです。また、年齢と共に、食べ物との相性が変わることもあります。」

ここでスワミは自身の体験を話しました。スワミはもともと牛乳が全くダメで体質的にも合いませんでしたが、しつけのおかげで大人になってからは飲めるようになり、その後もずっと飲み続けていました。しかし数年前に胃腸や肺の調子が悪くなった時、医者にかかっても原因が分からなかったので、スワミは食生活を変えることにし、牛乳を飲むのをやめてみたら、数日で症状が一切出なくなったそうです。

スワミはこの時、おいしくて手軽に食べられるものよりも、新鮮で健康に良いものを食べるようにしたとのことでした。健康補助食品のようなサプリメントの摂取や運動も、個人の体質や体調に合わせて行うべきでしょう。毎日の食事時間も、各自の体内時計の動きを良く知って、リズムに合わせて取ることが大切です。「私は、かなり高齢のお医者さんにかかったことがあります。その方は、医者である私の父の先生に当たる方でした。その方は、こう言われました。『刑務所の囚人が健康である理由を知っているかね。刑務所の食事は決して質が良いものとは言えない。囚人が健康なのは決まった時間に食事を取るからなんだよ。』」

スワミはまた、食事は落ち着いて静かな心で取るべきだと言いました。怒りなど心を乱す要因は取り除くべきで、食事の前に祈りを捧げるのは心と体の両方に大変良い影響を与えるそうです。また、病気になる前に、予防策として適度な運動を習慣づけることが望ましいとのことでした。

「心の健康とは何でしょう。それは、道徳心が強く、情緒が安定していて、強い精神力や意志力のある状態を言います。この三つがそろった状態を健康な心というのです。もし道徳心に欠ける所があったり、情緒が不安定であったり、意志力の力がないのであれば、その人の心は健康ではない、病んでいると言えるでしょう。」

スワミは、肉欲（カーマ、kama）、怒り（クローダ、krodha）、貪欲（ローバハ、lobha）、幻惑（モーハ、moha）、うぬぼれ（マーダ、mada）、嫉妬（マツサーリヤ、matsarya）の六つの要素が道徳上『悪』であり、健康な心を蝕むものであると言いました。「情緒の不安定は、論理や識別により頭（知性）と心（感情）を結びつけることで治すことが出来ます。心の健康なくして肉体の健康はあり得ません。そして、魂の健康なくして、心の健康はあり得ないのです。これらの要素をすべて結びつけて初めて、ホリスティック・ヘルスを享受出来、健康の恩恵である平和と喜びを享受出来るのです。」

忘れられない物語

ある日、小さな僧のもとに、大柄で筋骨たくましい侍が訪ねて来た。「お坊様。」侍は、その場限りの猫なで声こう言った。「天国と地獄のことを知りたいんですがね。」

僧は、強そうな侍を見上げると、軽蔑するような目つきでこう言った。「天国と地獄だと？お前のような奴に教えることなど何も無い。汚らしい。ああ、臭い臭い。お前は臭いし刀もさび付いている。なんて恥ずかしい奴だ。お前は侍の面汚しだ。さっさと消えろ。見るのもうんざりだ。」

この言葉に侍は激怒した。あまりの怒りに体は震え、顔は真っ赤になった。彼は刀を抜き高くと振り上げると、僧めがけて振り下ろそうとした。

「それが地獄というものですよ。」僧は優しく言った。

その瞬間、侍の体は硬直したように動かなくなった。この小さな僧が、地獄というものを教えるために命がけで行った説教に、侍は慈悲と自己放棄の精神を見た。侍は、ゆっくりと刀を降ろした。心には感謝の思いがみなぎり、直ちに平和が訪れた。

「そして、それが天国というものです。」僧は優しく言った。

スワミ、日本各地を訪問

11月から12月にかけてスワミ・メダサーナンダは忙しい日々を送りました。去年に引き続き北海道札幌市へ二度目の訪問を果たしただけでなく、多くの方々からいただいた講話のご依頼にお応えして、日本列島を飛び回りました。

本州では、11月7日に大阪で「シュリ・ラーマクリシュナの福音 - その生涯と教え」というテーマで講話を行いました。翌8日には奈良の郊外で「瞑想とマントラ」をテーマに、ヨガを学んでいらっしゃる女性五十人のグループに講話をしました。

沖縄では、那覇市内のヒンズー教寺院で二回講話を行いました。11月12日の講話は、地元の方々にバクティ・ヨガについてお話ししました。13日は地元在住のインド人の皆様にカルマ・ヨガについて英語でお話ししました。

四国では、11月27日に高知市を初めて訪れ、地元の方およそ七十五人に「平和について」というテーマでお話ししました。

また再訪となる九州では、12月5日に熊本で、二十人ほどの方々に「内なる平和について」というテーマで講話を行いました。12月7日には福岡で、ヨーガ・ニケタン福岡の二十五名の方々に「瞑想と平和」についてお話ししました。

=====

発行：日本ヴェーダータ協会
249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel：046-873-0428
Fax：046-873-0592
Website: <http://www.vedanta.jp>
Email: info@vedanta.jp
[KENB017J]

=====